

稀代の収集家・油谷満夫氏について

202512 西村 修

個人で民具の収集を始めて約70年。これまで集めたコレクションはジャンルを問わず50万点にも及びます。特に民具のことを油谷氏は「生活文化財」と呼んでいます。

「モノは自らの手で触れないとわからない味わいがある」(油谷)。時代の変化とともに捨てられ、失われていく運命となるモノの収集に人生を捧げてきたのです。

仙北市、横手市、湯沢市での資料館を経て、2012年、約20万点のコレクションを秋田市に寄贈したのを機に秋田市へ移住。しかし、残り30万点のコレクションは手つかずのままです。この膨大な個人コレクションと、現在90歳の油谷さん個人がもつ彼の知識や知恵をどう伝えていくかが今後の課題です。

「捨てられるモノを拾い集め、未来につなげるのが私の使命」と油谷さん。現在も、収集や展示などを通じて『モノが語る世界』を人々に伝える活動を続けています。

【主なコレクション】

毎週木曜日のCNA情報番組「し～なチャン」ではこれまで約50回にわたり、油谷さんの資料をもとに紹介。

- ・豊臣氏となった佐竹義久
- ・佐竹三十六歌仙～切り売りされた「宝」
- ・隠れキリシタン秘密の絵図～義宣側室の謎
- ・戊辰戦争の真実～12代佐竹義堯の苦悩
- ・「千秋」公園名づけ親は？～漢学者狩野良知と13代(佐竹宗家33代)義生
- ・平野政吉と藤田嗣治との友情の証
- ・北前船と佐竹藩
- ・「皇居の防空壕の設計者・秋田出身、佐々哲爾中佐」…

ほかに日本初の新聞「東京日日新聞」、「郵便報知新聞」そして秋田魁新報の前身である「遐邇（かじ）新聞」など。

取材の中で、秋田市に寄贈した分よりも、私物「30万点」の中に「文化」を伝えるより多くのものがある、と思っています。教育教材として大学(例えば国際教養大、公立美大、県大)や博物館・美術館などでコレクションが生かされ、文化がつながってくれることを願うばかりです。また、歴史的な文書は新しくなる佐竹史料館などに…平野政吉、藤田嗣治の資料や那波家、辻家など秋田の商家の文化を伝える資料も貴重です。

CNAドキュメンタリー「物の声を聴け」(YouTubeで配信中)